

基本構想のコンセプトを踏まえた道の駅あらお（仮称）の魅力づくりの方向性

◆基本構想の位置づけ等

◆南新地地区のコンセプト：（R1.8 南新地地区ウェルネス拠点基本構想）

有明海の夕陽が照らすウェルネスタウンあらお

主要ターゲット：20～30代の女性（特に子育て世代）

◆道の駅のコンセプト：（R2.3 道の駅あらお(仮称)基本構想）

しあわせと元気の創造ステーション ～有明の海と小岱の山で紡ぐ「食ものがたり」～【目標】・食を中心とするサービスにより、**地域経済の循環を拡大**
・誰もが生き生きと過ごすことで**「しあわせ」を感じる場の創出**

【新たな社会動向】

新型コロナウイルス感染症の拡大により人々の行動や価値観が大きく変わっており、飲食業や宿泊業をはじめ、観光関連産業は深刻な打撃を受けている。今後は、「3密」回避など「新しい生活様式」に対応した空間や機能が求められるとともに、テイクアウトや中食需要が伸びてくることが予想される。

【南新地地区のまちづくりの進展】

コンセプトに掲げた「ウェルネスタウン」を具現化するため、「道の駅あらお(仮称)」の立地予定エリアについて、有明海沿岸地域の連携、屋外空間での滞在型アクティビティの充実等により、「有明・荒尾ならではのアクティブな活動で心身をリフレッシュできる場所」とすることを検討している。

◆コンセプトを具体化する戦略① **有明沿岸地域の連携による産品・コンテンツの充実、マーケットの創出**

有明海沿岸道路を軸とする環有明連携で、「有明」のブランド力を高める

有明沿岸地域の道の駅が連携し、周遊を促すことで、集客力を高める

来訪者による消費を、地域の賑わい創出と地域経済の好循環につなげる

環有明連携（有明沿岸地域の連携）のイメージ



有明

【「環有明連携」の例】

- ・協働プロモーションによるマーケット創出・拡大
- ・有明のブランド育成（OEM、プライベートブランド等により、商品開発・製造等を、一自治体ではなく圏域全体で担う）
- ・相互誘客 等

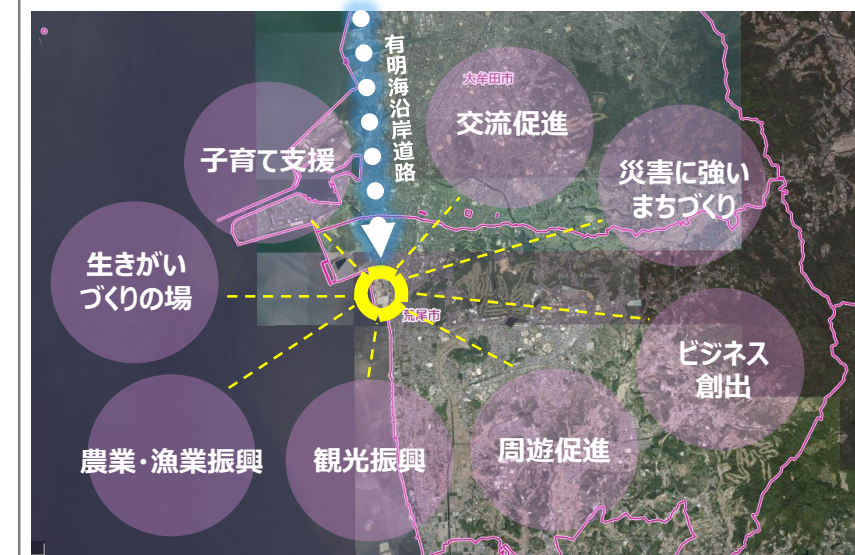
有明沿岸地域の道の駅連携のイメージ



あらお

夕陽、ウェルネス、干潟、健康、滞在、食、遊び、学び…

賑わい創出と地域経済の好循環のイメージ

◆コンセプトを具体化する戦略② **荒尾市の強み（ポテンシャル）を活かした魅力づくり**

●道の駅あらおの強み

[機能の集積]

多様な機能が集積するウェルネス拠点の中核

[地域資源]

有明海、夕陽、小岱山、食(梨、マジック、…) など

[新たなまちづくり]

先端技術を積極的に活用したまちづくり

[アクセス条件]

熊本県の北の玄関口、有明海沿岸道路の「集着地」

ウェルネス拠点やスマートシティなどの「荒尾ならではの」取組みに加え、「荒尾ならではの」地域資源や立地上の強みを活かして人を呼び込む

■魅力づくりの方向性(案)

- 方向性1 周辺施設と連携し、健康づくりやアウトドアなどの**新たなニーズも踏まえた機能の整備により、他の道の駅にはない価値を提供する**
- 方向性2 荒尾・有明ならではの**地域資源の活用**により、ニューノーマルに対応した、「食」を中心とした**感動体験**を提供する
- 方向性3 魅力ある「**ゲートウェイ**」を形成し、**圏域内での連携による交流の促進や災害時の安全・安心の場**を提供する
- 方向性4 **スマート技術に支えられた、便利で快適なまちの魅力**を体感できる場を提供する